

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 30 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約2.5 m ³ /h	26.8	106.8 kPa abs	A系*2:	- vol %
		給水系:約2.4 m ³ /h			B系:	0.06 vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.9 m ³ /h	39.7	5.52 kPa g	A系:	0.08 vol %
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系:	0.08 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.0 m ³ /h	39.4	0.25 kPa g	A系:	0.19 vol %
		給水系:約2.1 m ³ /h			B系:	0.18 vol %

*1 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2 電源停止作業に伴いデータ欠測

【1~3号機】

- 11/27 13:25~18:45 1~3号機原子炉注水について、11/28から11/29の間に予定されている所内共通電源改造工事に伴い、1~3号機常用高台炉注水ポンプの電源を停止するため、常用高台炉注水ポンプからタービン建屋内炉注水ポンプに切り替えを実施。
これに伴い、1号機の原子炉への目標注水量(総流量 4.5 m³/h)については、タービン建屋内炉注水ポンプの流量下限値(4.5 m³/h)が同じであり注水流量の調整が困難となるため、1号機の原子炉への目標注水量が 5.0 m³/h(総流量)になるよう、同日 16:30、1号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約 2.4 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 2.0 m³/h から約 2.5 m³/h に変更。
- 11/30 13:32~16:45 その後、所内共通電源改造工事が終了したことから、タービン建屋内炉注水ポンプから常用高台炉注水ポンプに切り替えを実施。
これに伴い、1号機の原子炉への目標注水量が常用高台炉注水ポンプ運転時の目標注水量 4.5 m³/h(総流量)になるよう変更。
- 11/29 18:55 2, 3号機原子炉への注水量の低下が確認されたため、以下の通り注水量の調整を実施。
2号機:給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 1.9 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.1 m³/h から約 3.9 m³/h に調整。
3号機:給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.1 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.6 m³/h から約 4.0 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	16.0 ¹
2号機	循環冷却システム	運転中	14.6
3号機	循環冷却システム	運転中	14.1
4号機	循環冷却システム	運転中	24

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

※1 1号機使用済燃料プール循環冷却システム停止中の為、至近のデータ(11/25 11:00 現在)を掲載。

【1号機】

- 11/25 13:54 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、所内共通電源改造工事に伴い当該システムの電源が停止すること(電源停止期間は11/27から28までを予定)から、事前に同システムを停止(停止時プール水温度:16.0℃)。なお、11/28に冷却を再開する予定だったが、当該システムの電源停止予定が変更となったことから11/29に冷却を再開する予定。
- 11/29 当該システムの電源を復旧し、使用済燃料プール代替冷却システムの起動操作前の状態確認を行ったところ、熱交換器二次系放射線モニタ異常の警報が発生しており、放射線モニタの指示がダウンスケールしていることを確認。
このため、11/30放射線モニタの点検を行ってから冷却を再開する予定。使用済燃料プール水温度の上昇率は約0.088℃/hと評価しており、11/30 0:00 現在、約25.3℃と推定されることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

【3号機】

- 10/4 使用済燃料プールの塩分除去装置(モバイルRO)において、バッファタンク水位が高いことを示す異常警報の

発生により停止。

- 10/24 運転停止中だった同装置において、25%塩酸タンクより塩酸が漏えいする事象が発生。バッファタンク水位が上昇した原因は、一部の水位計がスケール*の固着により動作しなかったことであると推定したため、当該水位計等に対して酸洗浄を実施し、塩酸注入運転によるスケール除去効果の確認を実施。また、塩酸が漏えいした原因は、塩酸注入運転によって 25%塩酸に耐性のない接続部材が損傷したことであると推定したため、耐酸性で使用実績を有す部材への交換を実施。その後、試運転開始に向けた準備が整ったことから、同装置を起動。運転状態に問題がないことを確認したことから、11/30 10:50、同装置の本格運用を開始。
- *使用済燃料プール水に溶解しているカルシウムが、炭酸カルシウムとして析出したもの

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/25 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	11/23 10:15 ~ 移送実施中

・港湾内の物揚場に係留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設する予定。移設にあたり、メガフロートには、5・6号機タービン建屋の溜まり水を貯留しており、低濃度の放射性物質が含まれていることから、海への放射性物質漏えいリスク低減のため 11/22 10:10 より 11:59 まで、メガフロートから5・6号機周辺仮設タンク等への溜まり水の移送を実施。なお、移送については、概ね1ヶ月程度を予定。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/30 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上